

# MRC-HB [Ver2.0-200319]

## 設定ガイドブック

明京電機株式会社  
2020/4/10作成

弊社ソフトウェアMRC-HB ver2.0(以下、「本ソフト」と呼ぶ。)をご利用いただき、誠にありがとうございます。

本書にはMRC-HBの各項目の説明、設定の一例が書かれています。

本ソフトは、弊社サイネージリポーターRPC-M4HSi専用のソフトウェアとなります。RPC-M4HSiに対してハートビートパケットを送出する目的で、ご使用ください。

### 《クイックセットアップ》

基本画面の「IP Address」と「Start Wait Time」、CPU resource画面の「Monitored application」を設定すれば、あとはデフォルト値のまま、本書の最終項《設定例》のように設定することができます。

MRC-HB Ver 2.0-200319

Heartbeats Status: [ ] CPU resource status: [ ] Start [ ]

CPU resource Count Max: [ ] Stop [ ]

IP Address: 192.168.10.1 Port: 9100 Local Port: 9100 Interval: 5 sec

Code: MK Data select: None Send data: [ ] Start Wait Time: 0 sec CPU resource [ ]

Add shortcut to startup [ ] Close [ ] Exit [ ]

MRC-HB Ver 2.0-200319

CPU resource Check  Waiting for start

Monitored application: [ ] Open [ ] #0 - #10 task no.

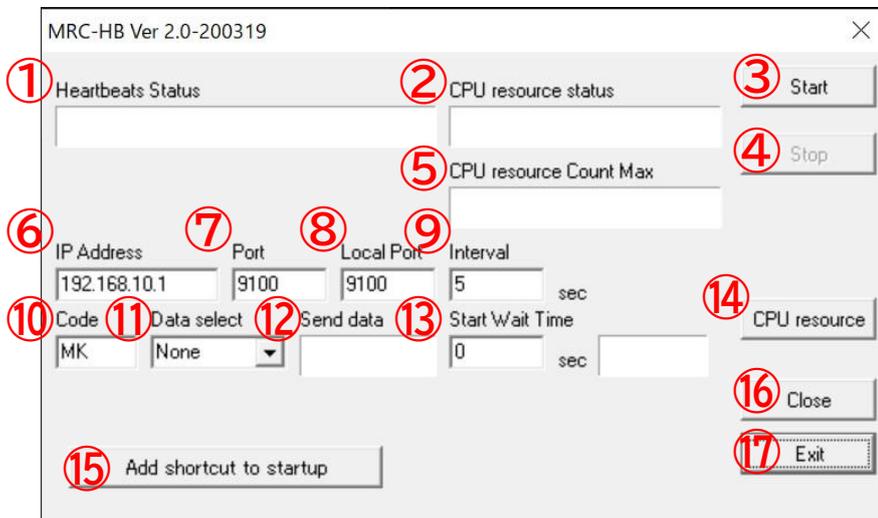
Counts: 30

Log Report:  Log CLS logfile.txt

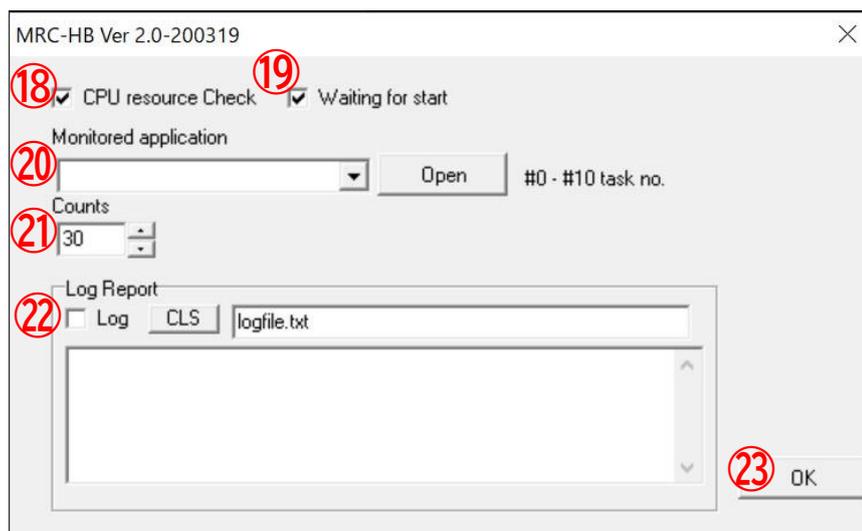
OK [ ]

## 《各項目》

### [A] 基本画面



### [B] "CPU resource"画面



#### ①"Heartbeats Status"

ハートビートパケット送信状況を表示します。

- 送信中は"Send", 停止中は"Stop", 送信開始/停止日時を表示します。
- "Start Wait Time"(⑬)や"Waiting for start"(⑰)で「送信待ち」が発生している  
と, "Start"と表示されます。

#### ②"CPU resource status"

"CPU resource"(⑫)で指定したソフトウェアのCPU監視状況を表示します。"Counts"(⑳)で指定した秒数間, 異常を検知するとハートビートパケット送信を停止します。

- "WT" = 「ウェイトタイム中」の意味。(⑬参照)

### ③”Start”

ハートビートパケット送信を開始します。

- ★”Start Wait Time”(⑬)設定時, そのウェイトタイムを待ってから送信開始します。⑬の右隣の部分に残り時間が表示されます。
- ★”CPU resource Check”(⑱)がON (CPU稼働率監視実行時), ”Waiting for start”(⑲)もONの時, 監視するアプリが起動されていないと”Start”をクリックしても送信待ちの状態になります。

### ④”Stop”

ハートビートパケット送信を停止します。

### ⑤”CPU resource Count Max”

CPU監視状況で, 同じ数値[\_%]が続いた場合, 何秒間続いたかを表示します。

- ★使用する動画を一度試験的に再生し, この枠に表示されたCount数よりも大きな数値を⑳「Counts」に設定してください。

### ⑥”IP Address”

ハートビートパケット送信先IPアドレスを指定します。(デフォルト:192.168.10.1)

### ⑦”Port”

送信先ポート (RPC-M4HSiの「リブーター側ポート(受信)」と合わせます)  
(デフォルト:9100)

### ⑧”Local Port”

送信元ポート (RPC-M4HSiの「STB側ポート(送信)」と合わせます)  
(デフォルト:9100)

### ⑨”Interval”

パケット送信間隔(秒) (デフォルト:5)

- ★サイネージリブーターRPC-M4HSiの「STB設定」(もしくは「ハートビート監視設定」)で「ハートビート監視間隔(秒)」に設定した秒数よりも短く設定してください。

### ⑩”Code”

ハートビートパケットデータ, 後ろ2文字部分 (デフォルト値: MK)

- ★サイネージリブーターRPC-M4HSiの「STB設定」(もしくは「ハートビート監視設定」)で「パケット文字列」に指定した文字列をここに設定します。

### ⑪”Data select”

ハートビートパケットデータ, 前5文字部分 (デフォルト値: None)

[None] [CPU (DEC)] [CPU (HEX)]から選択できます。

- ★[CPU (DEC)] [CPU (HEX)]を選択すると, ハートビートパケットデータの前5文字部分に, 送出時点で”CPU resource status”(②)に表示されている「●%」の数値を反映させて, ハートビートパケットを送出することができます。(DEC:10進法で。HEX:16進

法で。)

## ⑫"Send data"

⑪で[CPU (DEC)] [CPU (HEX)]選択時、直近で送出したパケットの前5文字部分を表示します。

## ⑬"Start Wait Time"

本ソフト起動後、パケット送信を行わない時間を設定できます。(デフォルト:0秒)

**★STBが再起動されて、スタートアップで本ソフトが起動してから、動画再生が安定するまでの時間(秒数)を入力してください。**

## ⑭"CPU resource"

CPU監視したいソフトウェアを指定する画面[B]に移動します。

## ⑮"Add shortcut to startup"

「スタートアップ」フォルダにショートカットを作成し、PC起動に伴って自動的に本ソフトを起動するようにします。

## ⑯"Close"

設定画面を閉じます。(常駐状態のまま)

(設定画面右上の「×」マークは[Close]と同様、常駐したままになります。)

## ⑰"Exit"

本ソフトを終了します。

## ⑱"CPU resource Check"

チェックが入っている時は「CPU監視モード」になります。(デフォルトで、チェックが入っています。)

(チェックを入れない場合は、CPUを監視せず、「Start」をクリックするとパケットを送出し始め、「Stop」をクリックするまで送出し続けます。)

## ⑲"Waiting for start"

指定したメディア再生ソフトが起動していない時は「WT」状態にし、ハートビートパケットを送出しない(停止したままの)状態にします。(デフォルトで、チェックが入っています。)

(チェックを入れない場合は、指定したメディア再生ソフトが起動していてもハートビートパケット送出は開始され、Countが満ちるまでの間はハートビートパケットを送出し続けるため、動画が再生されていないディスプレイの画面がONになってしまうことになります。)

## ⑳"Monitored application"

CPU監視を行いたいソフトウェア、タスク番号を指定します。直接入力する、プルダウンメニューから選択する、または[Open]からexeファイルを指定してください。

●プルダウンメニューから、

[wmplayer#0]: Windows Media Player

[vlc#0]: VLC media player

が設定できます。

★Windows10デフォルトの「映画&テレビ」などのストアアプリケーションや、UWPアプリケーションは指定できません。

## ㉑"Counts"

異常が何秒間続いたときにハートビートパケット送信を停止するか指定します。(Countが満ちるまではパケットを送出し続けます。) (デフォルト:30)

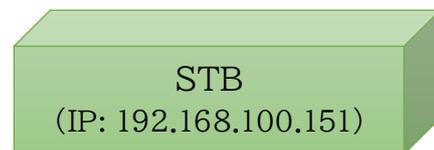
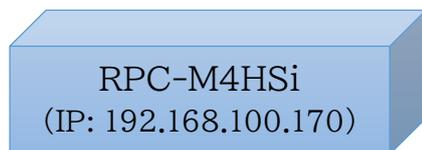
## ②”Log Report”

[Log]にチェックを入れると、下のウィンドウにログを表示し、本ソフトのあるフォルダにログのテキストデータを残すようになります。

[CLS]をクリックすると、下のウィンドウのログを消去します。(テキストデータは、mrchb.exeが格納されているフォルダに保存されています。)

## 《設定例》

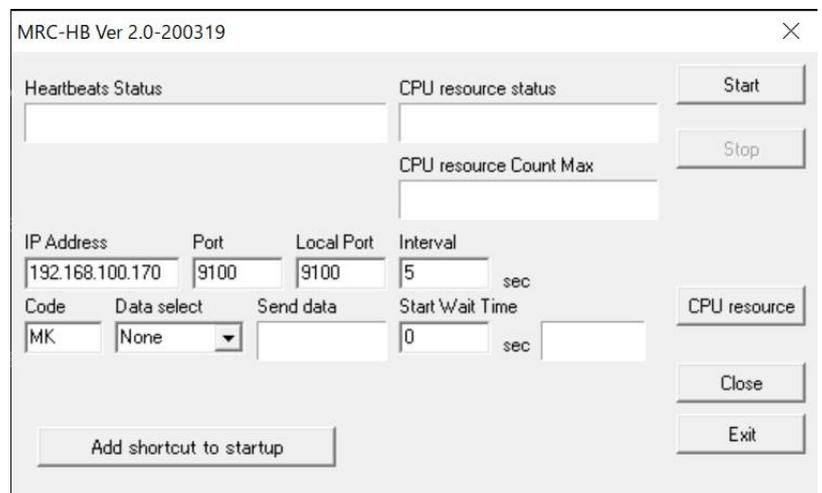
●RPC-M4HSiと組み合わせて使用します。



(IPアドレスは一例です。このアドレスでなければならないわけではありません)  
(STBの電源を、RPC-M4HSiのアウトレット2からとっている設定です)

### 【MRC-HB Ver2.0-200319の設定】

(1) 「MRC-HB Ver2.0-200319」を起動します。すると右の画面が表示されます。



(2) 実際に運用するにあたって[Start Wait Time]と[Counts]の適正值をテストする必要があります。  
《テストですので、RPC-M4HSi側はまだ設定していない状態で構いません。》

●テストに先立って、

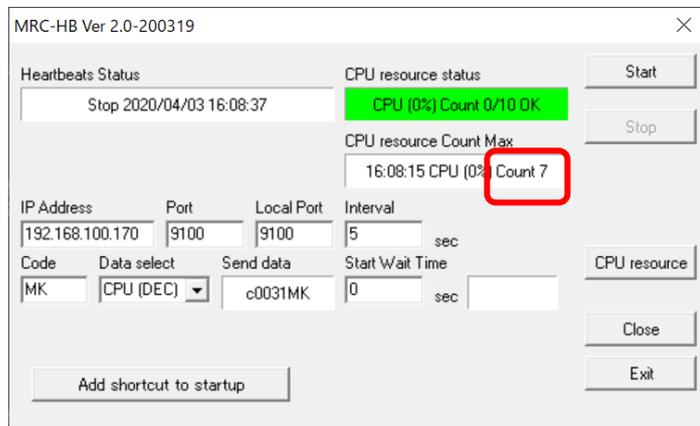
- Windowsのスタートアップに設定して、STBが起動後、自動で動画再生が始まるようにしてください。
- 本ソフトの[Add shortcut to startup]をクリックして、本ソフトがスタートアップに登録されるようにしてください。
- 本ソフト[CPU resource]画面, [Monitored application]で、CPU監視先となる動画

再生ソフトを指定してください。

- Windows Media Player, もしくはVLCメディアプレーヤーを指定する場合は、プルダウンメニューから選択してください。
- その他のソフトを使用する場合は[Open]をクリックし、exeファイルを指定してください。

#### 《各項目の説明》

- ★[Start Wait Time] : STBが起動時に、**スタートアップで本ソフトが起動し、その後、動画再生が安定して行われるまでの時間(秒数)**を設定する必要があります。
- ★[Counts] : **CPU監視において同じ%が続くとカウントアップが始まります。**そして、ここの設定値までカウントアップされると、ハートビートパケット送信を停止します。そのため、一度運用する動画を(最初から最後まで通しで)テスト再生し、**再生後、本ソフト基本画面の[CPU resource Count Max]**に表示された、**末尾の「~ Count ●」の「●」の数値よりも少し大きい値を設定してください。**



↑この画像であれば、「7」より大きめで「9」などに設定。

(3) (2)のテストで得た数値をもとに、各項目の設定確認をします。

#### 《基本画面》

[IP Address]に「RPC-M4HSiのIPアドレス」を入力します。

[Interval]:「5」秒。ハートビートパケットを5秒間隔で送信します。

★RPC-M4HSiで設定した「ハートビート監視間隔(秒)」よりも短い間隔にしてください。

[Start Wait Time]:(2)で得た「**スタートアップで本ソフトが起動し、その後、動画再生が安定して行われるまでの時間(秒数)**」より1,2秒長い値を設定してください。

#### 《CPU resource画面》

[CPU resource Check], [Waiting for start]両方ともにチェックを入っていることを確認してください。(デフォルトでONになっています)

[Counts]を(2)で得た値に設定します。

★(1)の[Interval]よりも大きな値にしておく必要があります。

[Log]にもチェックを入れておくと、CPU監視の様子をログに残すことができます。チェックを入れることを推奨します。

これらの設定をした後、[OK]をクリックし、(1)の画面に戻しておきます。

### 【RPC-M4HSiの設定】

(1) 画面左の【サインージ管理】[STB設定]をクリックすると、右の画面が表示されます。

サインージ管理 / STB設定

シャットダウン設定

アウトレット1   アウトレット2   アウトレット3   アウトレット4

Wake On Lan

Wakeup最大カウント数

Wakeup間隔(秒)

アウトレット連動送信 Wake On Lan

No.	アウトレット名称	MACアドレス
1	Outlet1	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>
2	Outlet2	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>
3	Outlet3	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>
4	Outlet4	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>

ハートビート監視条件設定

STB	STB名称	監視IPアドレス制限 (空欄→全て受信)
1	<input type="text" value="Heartbeat #1"/>	<input type="text"/>
2	<input type="text" value="Heartbeat #2"/>	<input type="text"/>
3	<input type="text" value="Heartbeat #3"/>	<input type="text"/>
4	<input type="text" value="Heartbeat #4"/>	<input type="text"/>

STB	1	2	3	4
HB文字列	<input type="text" value="MK"/>	<input type="text" value="MK"/>	<input type="text" value="MK"/>	<input type="text" value="MK"/>
リポーター側ポート(受信)	<input type="text" value="9100"/>	<input type="text" value="9101"/>	<input type="text" value="9102"/>	<input type="text" value="9103"/>
STB側ポート(送信)	<input type="text" value="9100"/>	<input type="text" value="9101"/>	<input type="text" value="9102"/>	<input type="text" value="9103"/>
ハートビート監視間隔(秒)	<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="8"/>
TimeOut判定数	<input type="text" value="3"/>	<input type="text" value="3"/>	<input type="text" value="3"/>	<input type="text" value="3"/>
リポート判定後、無監視時間(秒)	<input type="text" value="90"/>	<input type="text" value="90"/>	<input type="text" value="90"/>	<input type="text" value="90"/>
動作最大回数	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="2"/>
電源供給アウトレット	<input type="text" value="なし"/>	<input type="text" value="なし"/>	<input type="text" value="なし"/>	<input type="text" value="なし"/>

STB	有効	アウトレット			
		1	2	3	4
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
動作		<input type="text" value="無動作"/>	<input type="text" value="無動作"/>	<input type="text" value="無動作"/>	<input type="text" value="無動作"/>

適用

明京電機株式会社

(2) 以下のように設定してください。

【ハートビート監視条件設定】

「監視IPアドレス制限」

→空白の場合、あらゆるIPアドレスからのハートビートパケットを受け付けます。

→STBからのハートビートパケットのみを受け取りたい場合、この欄に「STBのIPアドレス」を入力してください。

「HB文字列」

→MRC-HBの”Code”と合わせてください。

「リブーター側ポート(受信)」

→MRC-HBの”Port”と合わせてください。

「STB側ポート(送信)」

→MRC-HBの”Local Port”と合わせてください。

「ハートビート監視間隔(秒)」

デフォルト:8秒

「TimeOut判定数」

デフォルト:3回

→デフォルト値のままならば、ハートビートパケットが届かなくなって8秒×3回=24秒ほどでTimeOut判定になり、動作条件に設定した動作が実行されます。

「動作最大回数」(動作が「Reboot」「Sh->Re」の時、この数値が適用されます)

デフォルト:2回

→「STBの電源OFF→ON後、WOLによってSTBが起動しようとしたものの、OS起動の段階でフリーズする」という事態に備えて、動作「Sh->Re」を2回以上に設定される場合、「正常にOSが起動し、スタートアップでMRC-HB起動、そして動画再生を開始して安定するまでの時間」を「リブート判定後、無監視時間(秒)」に設定する必要があります。

「電源供給アウトレット」

→(ハートビートパケット送出元となる)STBの電源がとられている、リブーターのアウトレットを指定してください。

→そのアウトレットに対して、WEB画面から手動で電源OFFを行う、またはスケジュールで電源OFFにした場合は「意図的な電源OFF」と判断し、そこからハートビートパケットが届かなくても「正常」と判断する(ハートビート監視を停止し、TimeOut判定せず、動作を実行させない)ようにできます。

★詳細取説「付録B」をご覧ください。

ハートビート監視条件設定				
STB	STB名称	監視IPアドレス制限 (空欄→全て受信)		
1	Heartbeat #1	192.168.100.151		
2	Heartbeat #2			
3	Heartbeat #3			
4	Heartbeat #4			

STB	1	2	3	4
HB文字列	MK	MK	MK	MK
リブーター側ポート(受信)	9100	9101	9102	9103
STB側ポート(送信)	9100	9101	9102	9103
ハートビート監視間隔(秒)	8	8	8	8
TimeOut判定数	3	3	3	3
リブート判定後、無監視時間(秒)	90	90	90	90
動作最大回数	2	2	2	2
電源供給アウトレット	Outlet2	なし	なし	なし

STB	有効	アウトレット			
		1	2	3	4
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
動作		Off追従	Sh->Re	無動作	無動作

(3) 画面下部の[適用]をクリックします。

★MRC-HB側の設定, RPC-M4HSi側の設定が行い、  
動画を再生している状態で、  
RPC-M4HSiのWEB画面左側の【サインージ制御】の[有効]をクリックし、  
[CPUリセット]をクリックしてください。

以上

